

庄内町立図書館だより

よめっちゃん

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2016. 3. 23 (No. 11)



DVD 貸出のご案内♪

庄内町立図書館では、DVD も貸し出ししています！

10冊貸出期間中、DVD は5枚まで借りることができます。
(普段は3枚まで貸出可)
読書の合間に DVD 鑑賞はいかがですか？



図書館カレンダー

★開館時間

平日 午前 9:00～午後 7:00

(3月までは午後 6:00 まで開館)

土日 午前 9:00～午後 5:00

⇒休館日

4月



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
18	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

おはなしらんどポップコーンの「おはなし会」
5/18 (水) 10時～ (4月はお休みです)
町立図書館ホールで開催！お申込み不要です。
どなたでもお気軽にご参加ください◎

庄内町内藤秀因水彩画記念館

3月26日より5月15日まで開催の展覧会をご紹介します

今回の収蔵品展のテーマは「草花」。いつか散る儚さと、やがてまた咲き誇る力強さ。人々を魅了する草や花は、絵画、和歌、物語など、多くの芸術にとっても欠かせない存在です。いのちのかがやきを捉えた作品の数々をご覧ください。

内藤秀因の描いた草木花と庭園
第96回 収蔵品展
春うらら



内藤 秀因「飛鳥山の桜」(1970年)



加藤元助植物標本展

本展では庄内町廻館出身の植物学者、加藤元助(もとすけ)氏による昭和期の植物標本を十四点ご紹介いたします。収蔵品展と併せてお楽しみください。

こどもの読書週間特別貸出 4/9(土)～5/1(日)



10冊貸し出しとなります！
ぜひご利用ください。

庄内町立図書館では、本館・分館に所蔵のない資料を他の図書館より取り寄せるサービスを行っております。貸出期間は通常の貸出同様、2週間となります。ただし、返却期限の延長はできません。遠方からの取り寄せは送料をご負担いただく場合がございます。詳しくはカウンターまでお問い合わせください。



～QRコード
ご利用ください～

←スマートフォン用
携帯電話用→



お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

～出会い・新たな旅立ち～

こちらのコーナーでは、1年間にわたり色々な本を紹介してきました。また来年度もこの「よめっちゃん」から新たな本との出会いがありますように、職員一同でお届けしていきますので、どうぞよろしくお願ひします◎

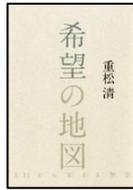


希望の地図 3.11 から始まる物語

重松 清／著(幻冬舎)

東日本大震災発生から半年後、重松清がフリーライターとして東北の被災地を徹底取材し紡ぎだした渾身のドキュメンタリー小説。

被災地で出会った人々が「絶望」から「希望」へと歩みだす姿を克明に描いている。庄内町の友好町である南三陸町との交流事業「漁業(わかめ)体験交流事業」を長年支える及川庄弥氏(現歌津総合支所長)も登場する。「逆境」に立ち止まることなく「希望」に向かって前進することの大切さを教えられる1冊である。



世界の果ての子どもたち

中脇初枝／著(講談社)

戦時中、親とともに満州へきた珠子、朝鮮人の美子、恵まれた家庭で育った茉莉。幼い頃に満州で会う。川ベリの寺で大雨に降られ、3人で分け合ったたったひとつのおむすび、それをきっかけに深い愛情と絆で結ばれた3人の女性。日本・中国・朝鮮の祖国で、悲惨で過酷な運命に翻弄されてゆく。それでも人のもつ優しさや愛情の記憶があれば、人は前を向いて生きていける。その彼女たちが40年後の再会の瞬間を迎える。どんな苦難の中でも、人を思いやれるやさしい心、胸に響きます。

この本に出会えたことに感謝！



精霊の守り人

上橋菜穂子／著(偕成社)

水妖に憑かれ、皇帝から命を狙われる皇子チャグムと、壮絶な生い立ちを持つ女用心棒バルサの奮闘を描いたファンタジーです。終盤、世界の広さ、命の重さを教えてくれたバルサのもとからチャグムは旅立ちます。それは同時に、様々な策謀渦巻く宮中に再び身を投じる事を意味しました…。今月からNHKでドラマ化されるという話題性を除いても、ぜひシリーズ12作を制覇してもらいたい名作です。



ルドルフとイッパイアッテナ

斉藤 洋／作、杉浦 範茂／絵(講談社)

黒猫のルドルフはある日突然住んでいた土地を離れることに。そこで親分肌のトラ猫イッパイアッテナと出会います。ルドルフは彼から野良猫として生きる術、人間との付き合い方、文字の読み書きまでも教わります。しかし故郷に戻るチャンスを目前にして事件が…

師弟の絆、イッパイアッテナの男気ある言動にぐっと引き込まれました。新しい出会いによって自分の世界が大きく変わっていくことがあります。変化を恐れず、受け止めること。置かれた環境で前向きに生きていくこと。子どもの頃に読んだこの本との再会が、大切なことに気付かせてくれました。



漂流 本から本へ

筒井康隆／著(朝日新聞出版社)

この本は筆者の幼少期からの読書体験が年代順に綴られた書評集であり、同時に作家筒井康隆の自伝ともいえる。筆者のさまざまな本と人との出会いが詰まった本だ。計66冊の書評が掲載されているが、その語りの一つひとつが面白く、読み手が本書を媒介としてあらたな本と出会うことほぼ間違いなしだ(紹介されている本自体より書評のほうが面白い場合も稀にあり、してやられた気持ちになる)。

素晴らしい作品との出会いは、時に読者の人生を動かすことがある。ここで紹介される本の中にもあなたの世界の見え方を一変させる1冊があるかもしれません。

スーツケースの半分は

近藤史恵／著(祥伝社)

新しいことに挑戦するのは、誰でも勇気がいるものだ。思い切って足を踏み出しても、いつもうまくいくとは限らない。

フリーマーケットで出会い、衝動買いした青いスーツケースを道連れに、人生初の海外一人旅に出かける真美。そのスーツケースは友人にバトンタッチされ、さまざまな出会いをもたらす。「楽しくて優雅なだけが旅じゃない」……人生だって同じようなものかもしれない。さわやかな表紙は、旅立つ人の背中をそっと押してくれるようだ。



こちらで紹介した本はすべて庄内町立図書館にあります。貸し出し中の場合は予約もできますので、お気軽にお問合せください◎

